

七小校長室便り

開校52年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.1 令和6年(2024年)5月30日

校長室便り NO.1 を配信します。

令和6年度が始まり、2ヶ月が経とうとしているところです。今年度は、七小に着任して4年目となり、副校長時代と合わせても1つの学校で4年目を迎えることはなかなかありませんでしたので、今年度も学校経営を行うことができることに、感謝の思いとともに、関係各位の皆様にご挨拶を申し上げます。ありがとうございました。



今年度も、多くの皆様と語り合い、様々に思いを重ね合わせながら、七小の子供たちに見ることができている「やさしい姿」や「やさしい行動」を、更に高めていくことと同時に、いつも嬉しい思いで居られるように力を尽くしていきたいと思っております。

さて、ここで、今年度の4月からの2ヶ月を簡単に振り返りたいと思っております。

<年度当初の1週間>

今年度の4月1日は、月曜日からの暦でしたので、4月8日の始業式や入学式まで1週間の猶予がありました。お陰様で、新年度の準備をじっくりと時間をかけて行うことができました。また、新しい教職員を迎えてスタートすることにおいても、有難い期間となりました。



私たち教員は、3月31日までは、前任校で前年度の片付けや引継ぎを行います。そして、4月1日から、新しい学校で、その日から職務に携わります。教員の世界では、よく言われてきたことではありますが、「学校を異動するのは、会社を変わること」と同じようだとされています。

異動の際に、市内で異動する場合は、これまでの仕事で学んだことや知識が活かされます。ところが、自治体を超えて異動をすると、同じような職務においても、手続きや進め方、記入する様式が違ふことがあります。使っているPCも違っていることがあるので、改めて最初から学ばなければならないことも多いところです。

また、主任教諭から主幹教諭へ昇任したり主幹教諭から副校長へ昇任したりする先生方は、見る世界が違うこともあり、その上、異動されてくるとなると、全く別次元の取組が待っていることがあるのです。だからこそ、年度初めの様々に準備したり引継ぎをしたりする時間があることは、本当に有難いところです。今年度のスタートにおいての在り様が、この2ヶ月に反映されているところもあると思っております。働き方改革の1つの課題ともいえるところです。

<始業式・入学式>

始業式や入学式も、コロナ禍の制限において、あまり心配することなく新年度を始めることができました。この数年間の大変さは、言葉で簡単に言い表せることができない程の思いの中でしたが、ようやく、本来の学校としての機能を取り戻すことができる新年度となりました。

また、本校の1学期においては、運動会等の大きな学校行事を意図的に設定しておりません。



時間をかけて、子供たち一人一人が十分に学校に慣れることや学年や学級に慣れることを大切に取り組むことにしているからです。それは、保護者の皆様や地域の皆様、私たち教職員の大人にとっても、大切な時間であり、落ち着いて、それぞれが向き合えるようにしていくことを目指しています。

ご理解いただけましたら、有難いところです。

<PTAとの連携>

次に、この期間の新しい取組の1つとして、PTAの皆さんと教員との顔合わせの時間を設定したことです。PTAの皆さんに教員のことを知っていただく機会としては、学級や学年の保護者会の折に教職員紹介をさせていただいた時となりますが、できるだけ多くの皆さんに、本校の教員を知っていただくことは、なかなか難しいところです。特に、本校は、教職員数の多い学校であるため、教員なのか、会計年度の職員なのかが分かりづらいところがあります。短い時間でも、同じ時間と空間を一緒にして、PTAの皆さんと協働する一歩の機会としたいと、設定をいたしました。

また、来年度の令和7年度より、本校は、コミュニティ・スクールになります。ますますPTAの皆さんと地域の方々との連携が緊密になっていく段階にあります。

学校は学校、地域は地域、PTAはPTAというような、それぞれがそれぞれの取組となるのではなく、協働的で繋がりと関わりのある連携でありたいと願っているところです。

<育成会との連携>

先日の5月25日(土)には、今年度最初の学校公開を行うことができました。その日の午後には、育成会という名で知られております、青少年育成七小地区委員会の総会を本校の会議室にて開催いただきました。

これまでも、コロナ禍の中で、子供たちの健全育成のために、多くの取組について様々に工夫をしていただきながら実施していただきました。特に、子供たちが集まって取り組むことができない状況の中では、ネット配信によるクリスマスコンサートを実施していただき、少しでも子供たちに楽しい時間を提供しようと努めてくださいました。これからも、育成会の皆様と連携を図りながら、健全育成のための取組を展開してまいりたいと思います。何卒、よろしくお願いいたします。

<見守り会への御礼と感謝>

本校児童の安全と安心を見守り続けていただいている七小見守り会は、今年度までに、10年間の取組を継続されてきました。また、名誉会長として、子供たちを温かく見守り続けていただいた横戸澄子さんが、見守り会から勇退されました。



大きな節目の時でもあり、学校からは、子供たちからの感謝の言葉と感謝状を贈らせていただく会を行わせていただきました。



また、その大切な節目の年に、先日は、警視庁から表彰されることが決定したとお知らせをいただきました。見守り会は、本校の教育活動の土台を支える大切な組織であり、子供たちの日々の生活に無くてはならない存在です。その見守り会が10年間という取組の節目に表彰されることは、本校にとっても、この上もない喜びです。国立市の中でも、最大限に貢献されていることは間違いのないと思っています。

学校においても、7月頃にお礼とお祝いの気持ちを込めて、見守り会の皆様をお迎えしてお祝いの会をしたいと思います。詳細が決まりましたら、また、お知らせいたします。

P T A及び保護者の皆様、地域の関係各位の皆様、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

コミュニティ・スクールに向かって

先日の学校公開には、多くの保護者や地域の方々にご来校いただき、子供たちの今の様子を見ていただきました。保護者や地域の皆様には、七小の様子をどのようにご覧になっていただけたのでしょうか。是非ともご感想をお寄せください。よろしくお願いいたします。



皆様からいただいたご感想は、来年度のコミュニティ・スクールに向けての大切な検討材料となります。これまで、「やさしく」を重点目標として掲げ3年目を迎えています。七小にとって、本校児童にとって、これからの取組で何が大切なのかを見極めていかななくてはなりません。大切なのは、子供たちの思いであり、保護者や地域の皆様の思いが学校の在り様の土台にどう反映されていくかということになります。

コミュニティ・スクールは、これまでと違い、保護者や地域の皆様の代表の方と学校運営の共同体として機能していくことを目指します。そのため、今年度は、学校評価における評価を、3つの学校目標と照らし合わせながら、皆様のご感想やご意見をお聞きすることにいたします。

今回の学校公開のご感想や様々な機会にお寄せいただくご意見を参考して、来年度以降の七小のイメージ化を図ってまいります。お忙しいところかと思いますが、多くの方のお声をお寄せいただけますようお願いいたします。

【校長のつぶやき】

これまで教員となってから本校で7校目、今年度末で33年目の教員生活となります。着任した学校数としては、多い方ではないと思いますが、それぞれの学校における教員としての日々は、たくさんの子供たちとの思い出があり、失敗や成功が入り混じった毎日だったことを今もよく覚えています。

思い返すと、国語の音読の授業で、私の範読の後に続いて子供たちが読むような指導の場面では、言葉のイントネーションが方言のイントネーションの範読となり、子供たちが真似をして同じように読んでしまうことがありました。

自分では、標準的な読み方をしているつもりでも、言葉として身に付いたイントネーションは、なかなか変えることができず、こんなに難しいものかと思ったことがあります。今は、日常生活の中では、方言が出てくることは稀になっていて、地方出身者(関西の和歌山出身です)とは分からない方も多くいらっしゃいます。

生活を重ねていくことにより人は環境に順応し、その場所において自分の居場所としてよりよく生きようとしています。経験は、生きる力なのだと思えます。